第２回森林再生実行会議　議事録(要約)

令和３年 10 月９日(土)13：30～15：30
松本市役所　本庁舎　大会議室

（香山）
松本市民の皆さんに向けての会議をしようと、第２回目からは YouTube 配信を行っていく。会議を委員４人だけで進めるのではなく、いろんな人の声を聞き少ないけれど地域に出て声を集めた。また、委員独自の Facebook ページを立ち上げた。

（渡辺）
市内の飲食店やイベントで話を聞いた。木材に興味のある方ない方、松枯れで里山の姿が変わっていくのが寂しいと言う方がいた。木材に興味のない方とは距離を感じた。

（香山）
身近で木を使っていても、森林から松本の木にはなかなか繋がらない。業界の構造的な問題だ。

（三木）
宣伝用のぼり旗やチラシを作って市民の声を聞いた。多くの人には聞けなかったが、松枯れは非常に大きい。薪ストーブユーザーは多少なりとも山とつながりがあるが、直接的な関わりのない方は関心も薄いことが予想される。今後、住民自身で森林整備をしている方や高校生にも話を聞きたい。YouTube や Facebook を見ている方の話も聞かせてほしい。

（香山）
街へ出て実際に話を聞くことでいろんな繋がりができそう。

（渡辺）
三木さんの作ったチラシを図書館や市内はもちろん、飲食店やキャンプグッズの販売店などにも置いて声を集めるのも良いと思う。

（三木）
学校の木工などで子どもたちが木に親しむのは非常に重要な機会だが、ウッドショックで木の価格が上がり調達に苦労していると聞く。

（小山）
20 名くらいの市民から話を聞いた。森林に無関心どころか、意識の中にすら入っていない状態である。また、森林ボランティア活動をしている方からは、「松本には入りやすい山や、活動しやすい山がない。松本は森林との距離は近いけど、人の意識の中では入りにくい遠い山」とのこと。アルプス公園に入れる森があっても知らない、入らないのが現状。

（香山）
森林づくり以前に、松本の街がどういう街ならいいのかという問いに対してすら答えるのが難しい状態にあるので、森林についてはもっと遠い存在であると思う。

（渡辺）
三ガク都を謳っているが、山に興味のない方が目立つ。

（三木）
市民は街を歩いていないので話を聞けない。そもそも松本の世論はどういうふうに作られているのかがわからないと、次のステップ、市民が森林の事に関心を持って考えていくことはできない。

（香山）
林業業界の人たちは、松枯れは昔からある事柄で、検討会議の提言さえも今までにわかっていることが書いてあるだけという認識。空中散布中止は市民にとって大きな政治課題ではあったが、業界関係者にとっては大きな変化ではなく、ウッドショックも昭和の時代の方が材価は高かったし一時的なもので、今が大きな転換期、自らが何かやっていかなければという認識はないので、どう働きかければよいのかが課題。一部の市民にはすごく関心のある方もいるが、すそ野を広げていくと薄まってしまう。

（小山）
私の本業である、林業技術者専門家を育てる際に、地域の人の話を聞けと言っている。軸線が森林だけにあるような人だけでなく、子どもの居場所づくりや地域の祭りの継承、マウンテンバイクの問題など、軸線が他にもあるような方に話を聞くと面白いかもしれない。

（三木）
森林に対する林業業界の人の認識と一般市民の認識とのギャップが明らかになれば何か変わっていくのではないか。

（渡辺）
林業関係について、盛り上がりが見られる地域の良い部分を真似するのはどうか。

（香山）
長野県は森林県だが林業県ではない。県でも林業を推進しており、最近は市場で高く売れるのに木材があまり出てこない。林業業界では急に仕事を増やせないのが現実だと思う。
松本の森林再生の取り組みが新しいスタイルになるよう今後の話をしよう。

（市民：傍聴者）
森林についての課題意識、幅広い疑問や質問を受けてくれる相談窓口があれば、市民と木・森・山との距離が近くなると思う。

（小山）
窓口としては県の出先機関の林務課（林業普及指導員）が相談に乗る。そういった素朴な疑問や質問の大切さについては、今後の方向性の中で考えていきたい。

（香山）
木と森の相談室というものを作ろうとしているが、林業に関係ない市民の人になじむのかが難しいところ。

（渡辺）
私自身も行政書士として、山などに関する相続案件を扱っているので、行政機関などへのパイプ役や、山について受けた相談を繋げられる仕組みを作っていきたい。

（三木）
山の問題というのは木や林業だけではなく様々あり、行政の縦割りの仕組みと違う形で森林全般のことを市民会議の中で集めて、適切な専門がいる部署に割り振りをして解決することが出来ればいい。

（小山）
小さな町村の方は 1 人で多くのいろいろな業務やそれに関連する問題を担当し、そこに情報が集まっている。そのためにフットワークが軽いのではないか。

（香山）
今年、松本市は組織改正を行い、職員の方もどのような対応していくのかを試行錯誤されている。森林再生実行会議は松本市の機関なので、この新しい取り組みをどう生かせるのか考えていかなければいけない。

（香山）
ここ 3 年間の期間に、市で行われた外部の方を入れた森林や樹木を話題にした会議が、どんな感じで語られたか調べることは可能か？

（事務局）
市では、10 年計画の基本構想 2030 と、5 年計画の第 11 次基本計画を今年 8 月に策定しており、策定にあたっては、昨年度の森林再生検討会議で座長を務めていただいた原薫さんを含め、21 名の委員の皆様から色々なご意見をいただいている。冊子も出来ているのでお渡ししたい。
また、引き続いて委員の皆様は松本「シンカ」推進会議の委員として継続しているので、機会があれば意見を聞くことは可能と考えている。
また他の会議の中で、そういったものがあれば調べて提供する。

（香山）
松本市の(会議の中で)すでに集まってきている、いろんな森林とか木材とか環境とかっていうキーワードを拾い出すってことは、具体的にこの議論を進めていく上で非常に重要な資料になると思うので、幅広く本当にまとまってないようなことでいいので、拾ってもらえればと思う。

（三木）
再生可能エネルギーや太陽光発電などで、開発規制なのか開発促進なのかなど、その中で議論されていることと、森林再生実行会議や市民会議の中で議論していこうとする方向が全く逆であってはいけない。関係諸団体や当事者から情報収集し、議論することもありかと思う。

（香山）
森林に関係している所は市だけじゃなく、国有林や県の部分がかなりある。森林管理署や地域振興局にどのような動きがあるか調べて接点を探し、編集していかないと来年度へ繋ぐことができない。

（香山）
今後の方向性をもう少し煮詰めていきたいが何か他にあるか？。

（三木）
いろんな課題が市の中にあり、松枯れ、最近増えたキャンプ等、その地域によって問題の在り方が違う。それを地図に書き込み、地域ごとに解決の方向に持っていけないか。

（香山）
我々の生活に関わる森林として地域ごとの特性で課題が上がり、それをマッピングするということ。松本の森林に関わる課題のマッピング。

（小山）
地域の課題をマップ化し絵に落としていく中で、課題の見える化により、解決の具体化に繋がる様な気がする。

（渡辺）
地図に落とし込む際に委員が作るものではなく、市民を交えたワークショップ的な参加型にして取り組んでもらったら自分ごととしてとらえて、考える機会になるのではないか。

（香山）
それがまさしく来年度の一つの仕事になる。市民会議は、市民参加のワークショップ的なものを市役所でやるのではなく、キャンプ場などそれぞれのフィールドで行うアクティブな会議になりそうだ。

（小山）

きちんとしたものはできないと思うが、１回人を集めてみんなで議論するモデルケースのようなワークショップが会議の中でできないか。そうすれば、５回目に出てくる結論が製本された報告書ではなく、「こんなことをやる」といったイメージ的なものになると思う。

（香山）
森林再生実行会議の方向性が３回、４回に配置され、５回目の会議はまとめをする会議となる。

（小山）
全部の課題を３回目で出して、それを具体化してどうまとめていくのか考えるのが４回目で、足りないこととか他に必要なことがあるか確認するのが５回目。そうするとまとめができるという気がする。

（香山）
１回目で始めた活動はどうするか？

（三木）
市内のいろいろなところで話を聞いていかなければいけないと思っている。
３回目に課題出しをするのと同時に、市民の方に関心を持ってもらうために、森林についての何か講座をやる、関心を持ってもらうのに役に立つことを考える。それが４回目。
そうなると来年、再来年何をしていくか明確になってくると思う。

（香山）
４回目にパイロットワークショップを行うのは、いろんな制約があり難しい気はするが、市民に対してのアプローチに向けたリストアップ的なことはできるのではないか。
この会議の中身を伝える伝え方について、グラレコの提案が出たと思うが。

（渡辺）
グラレコとは、グラフィックレコーディングと言って会議の内容を図や絵で分かりやすくまとめてくれるもので、例えば、会議に参加できなかった方に対しても分かりやすい形で残せる、知ってもらうっていう部分に対しても見やすくできる。

（香山）
やっていることを伝えていくっていう、それもなるべくリアルタイムに伝えていくっていうことを、もっともっといろんな工夫をしなければいけないと感じている。

（三木）
松本市のやり方は、全国でも他にない新しいやり方だが、全部新しいことを自分たちが１番最初にやる必要はなく、他の自治体のやり方、考え方を学ぶのもありだと思う。
今年出た本で『森林を活かす自治体戦略　市町村森林行政の挑戦』がある。いろいろな市町村で取

り組んでいることを調べ、優れていること、問題があることを詳細に分析した本。そこに書いてあることから松本市で出来ることを探してみるのも必要。
　課題出しをして、いろんなヒントとして他市のやっていることを取り入れると、最終的な報告書でも、市民の方々に役に立つものになるのかなと思う。

（香山）
　三木さんに、森林再生実行会議に関わる文献リストというものをいろんな形で作っていただければと思う。

（渡辺）
　私たち世代の若い方に松本市のキーパーソンの方がいると感じる。そうした方で森林に興味がある方々がいるので、そこにアクションを入れて、今回の森林（森林再生実行会議）のことをまずは知ってもらうという部分を強めていかなければいけないと感じた。
　第 1、2 回の会議開催を Facebook や市のホームページで周知したが、今日会議を開いていることを知らない人がまだ多いと感じるので、次回以降に向けて強めていきたい。

（香山）
　提言の中で木材利用について触れているが、木材だけじゃなく、森林に関わることがビジネスサイドでどんな仕事になるのかが一番関心があることで、どんな仕事が発生するのかということを組み立ててみないと業界人は動かない。
　そういうことが動き出さないと、物事を進めるうえで市民の意識とは別に、一方ではビジネスが動くということが非常に強いエンジンになるので、自身の仕事としても構想していきたい。

（小山）
　木には関心があるけど松本市の木に繋がっていかないのは、その先がなく、ビジネスとして見えないから。少しビジネスに指の先ぐらい突っ込むと皆さんが興味を持ってくれる。自治体戦略の中にいろんなケースがある。市が持っている情報と市民とを連携するのが次回の自分の宿題。

（香山）
　今回はそれぞれが自分の宿題を発表しあった。
　次回第 3 回の会議は、概ね１１月中に開催する予定。
　今年度 5 回の会議を予定しているが、それとは別に会議室の外で私達 4 人はいろいろな活動をしている。会議は基本的に皆さんの前で開かれた形でやっていく。市の公式ホームページや Facebook でアクセスできる入り口も作ってあり、また委員は各自いろんなチャンネルで発信しているので、ぜひ気楽にアクセスして意見をいただき、そこでコミュニケーションを続けるということをやっていきたい。

（閉会）